

P C D - V I - 2 2 0

セットアップ・マニュアル

1998年 6月3日

第 1 . 0 1 版

**山下システムズ株式会社
大阪エム・アイ・エス株式会社**

目次

章	標題	頁
第1章	はじめに	4
1・1	概要	4
1・2	特徴	4
1・3	仕様	5
第2章	ハードウェア取り付け	6
2・1	システム必要条件	6
2・2	パッケージ内容	6
2・3	ジャンパ設定	6
2・4	取り付け	7
第3章	ソフトウェアのインストールガイド	8
3・1	ソフトウェア・マニュアル	8
3・2	インストール	8
3・3	Card Soft ドライバのインストール手順	9
3・4	Windows95 のためのインストール	15
第4章	PC カードの使用	16
4・1	PC カード使用の前に	16
4・2	カード挿入とシステムのビープ音	17
4・3	ATA カードを使用する	17
4・4	SRAM カードを使用する	18
4・5	LAN カードを使用する	18
4・6	FAX/MODEM カードを使用する	19
4・7	その他の PC カードを使用する	20
第5章	トラブルシューティング	22
5・1	インストール	22
5・2	ATA カード	23
5・3	SRAM カード	23
5・4	FAX/MODEM カード	24
5・5	LAN カード	24
5・6	他のカード	25

目次

章	標題	頁
5・7	AS-3110 と共に使用する場合	25
5・8	PCMCIA コントラ VT83C469 の登録されていないドライバ	26
章	標題	頁
図1・1	外形寸法図	5
図2・1	フラット・ケーブルの接続	7
図5・1	インストール時のウインドウ表示画面	22
章	標題	頁
表4・1	インストールされるドライバ	16

第1章 はじめに

この資料は PCD-VI-220 の使い方を説明するものです。
電源を投入する前にカード上のジャンパ設定を正しく行なう必要があります。

1・1 概要

PCD-VI-220 は、2 スロットの PCMCIA カードをドライブすることができるインタフェース・カードです。一つのスロットは、PCMCIA HDD のような厚みのある PCMCIA type のカードも装着可能です。PCMCIA カード・ドライブ・ユニットは、外形寸法、固定用タップネジの位置寸法を 1 インチ厚の標準 3 . 5 インチ F D D と同じにしてあり、3 . 5 インチ F D D ベイに簡単に取り付けすることができます。

DOS/Windows3.1 用 PCMCIA ドライバとして、SystemSoft 社の CardSoft V3.1 が標準添付されています。VT83C469(VIA/Taiwan) Intel i82365SL Step-B レジスタ コンパチブルの PCMCIA コントローラを使用していますから、添付ドライバ以外の Intel i82365SL 対応のドライバが使用できます。

たとえば、PC-DOS J6.3/V , PC-DOS J7.0/V , PlayAtWill や Windows95/NT の標準添付ドライバを使用することができます。

1・2 特徴

- ・ VT83C469(VIA/Taiwan) Intel i82365SL Step-B レジスタ コンパチブルの PCMCIA コントローラ使用
- ・ PCMCIA スロットは 2 つ、その内一つは type スロット
- ・ PCMCIA カード・ドライブ・ユニットは、3 . 5 インチ F D D ベイに取り付け可能
- ・ I S A バス・コンパチブル

1・3 仕様

動作温度範囲

0 ~ 70 (但し、PCカードに依存します。)

供給電源

PCカードのためのVcc + 5V 1A 最大

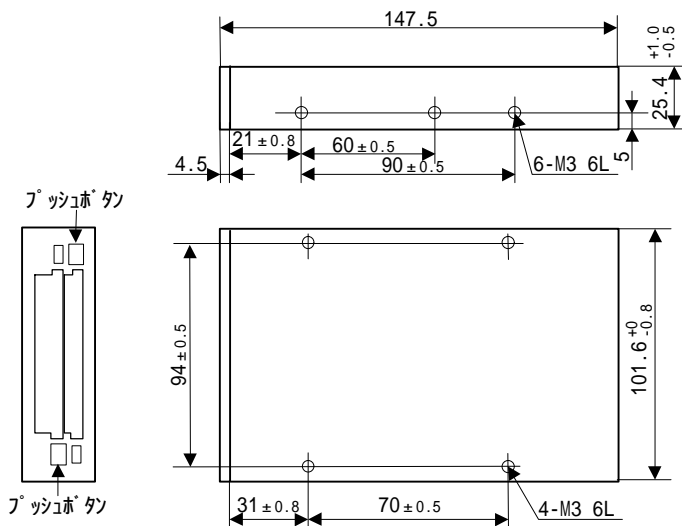
PCカードのためのVpp + 12V / + 5V / 0V 120mA 最大

機械的仕様

ISAバス・インタフェース・カード 166mm × 107mm

ドライブ・ユニット 101.6mm × 147.5mm × 25.4mm

フラット・ケーブル 50cm ± 5cm 40P × 2



注. プッシュボタンの最大突出寸法は7.0mmです。
指示無き公差は±1.0とする。単位: mm

図1・1 外形寸法図

第2章 ハードウェア取り付け

PCMCIA カード・ドライブを取付ける時は、PC ケースを開いて、操作する必要があります。パソコン本体の電源をオフにしてください。安全のために電源プラグを電源コンセントから抜いてください。本カードは静電気に敏感な部品を使用しています。部品が静電破壊する恐れがありますので、拡張スロット接続コネクタの接触部分、部品等に素手で触れないでください。

2・1 システム必要条件

PCMCIA カード・ドライブは、以下の仕様に従うシステムを必要とします。

- 最小の 80286CPU をもった IBM PC 互換機
- 少なくとも 1 MB の空き容量をもったハードディスク装置
- 1 つの空き 16Bit ISA バスカードスロット (クロック・バスは 8 MHz または、より遅く設定する)
- 1 つの空き 3.5 インチフロッピーディスク・ドライブ・ベイ
- DOS 5.0 以降
- Windows 3.1 以降、Windows 95 を含む

2・2 パッケージ内容

- ホスト・インタフェース・アダプタ
- ドライブ・ユニット
- フラット・ケーブル
- ソフトウェア・インストール・ディスクセット
- このユーザーズ・ガイド
- デスクトップ PC のドライブベイ上のドライブ・ユニットを固定するための 4 個のネジ

2・3 ジャンパ設定

1 台の PCMCIA カード・ドライブ上に 2 個のスロットがあります。PCD-XX-220 には、ジャンパ設定がありましたが、PCD-VI-220 には必要ありません。

2・4 取り付け

取り付け手順は、次の通りです。

1. コンピュータとすべての周辺機器への電源をオフにして、カバーを取り外してください。
2. 用意されたフラット・ケーブルとホスト・インタフェース・アダプタとドライブ・ユニットを接続してください。フラット・ケーブルのドライブ・ユニット側および、ホスト・インタフェース・アダプタ側共に、逆差し防止キーで、不当な挿入(図2・1参照)ができないようになっています。
3. PCの空いた16ビットISAバス拡張スロットにもホスト・インタフェース・アダプタを取付けてください。
4. PCのドライブ・ベイの中にドライブ・ユニットを滑らせて、4個のネジが用意されている状態で、それを固定してください。
5. ケーブルがドライブ・ユニットとホスト・インタフェース・アダプタに正確に差し込まれるのをチェックして、次に、コンピュータのカバーを閉めてください。

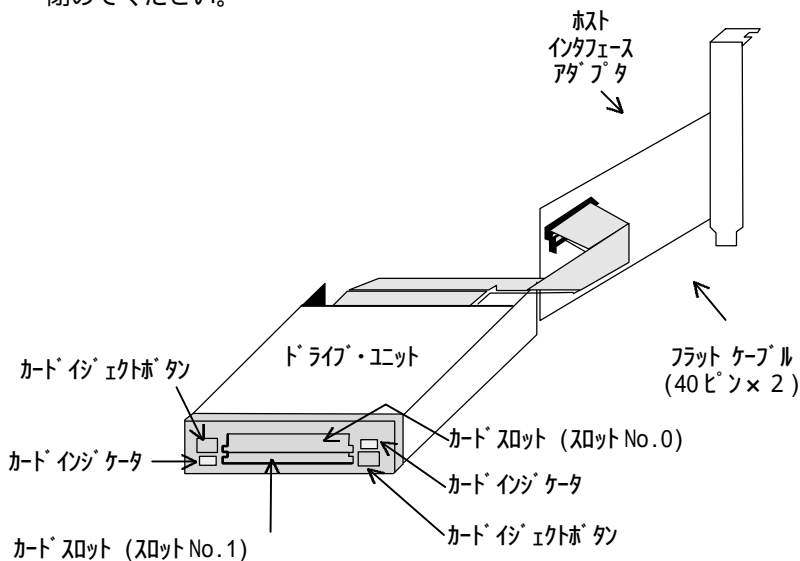


図2・1 フラット・ケーブルの接続

第3章 ソフトウェアのインストールガイド

PCMCIA カード・ドライブは、SystemSoft 製の DOS PCMCIA サービス・ソフトウェア・ライブラリ Card Soft を含みます。

Microsoft Windows3.1 のための PCMCIA 制御と保守ユーティリティ Card View を Card Soft と並行に動作させることで働き、Windows3.1 上で、容易に自分の PCMCIA カードを構成して、制御することができます。Windows 3.1 のユーザなら、Windows3.1 のための Card View をインストールする前に、Card Soft をインストールしてください。

注 . Card Soft と Card View は、Windows 95 のユーザならば、必要ありません。Window 95 は既に、PCMCIA カード・ドライブをサポートしています。

3・1 ソフトウェア・マニュアル

ディスケット(DOC)ディレクトリの中に、ソフトウェア・マニュアル(英文)が以下に示す5つのファイルの中に記述されています。

CSUG-DOC.EXE	[Card Soft ユーザーズ・ガイド]
CVUG-DOC.EXE	[Card View ユーザーズ・ガイド]
CSTR-DOC.EXE	[Card Soft テクニカル・リファレンス]
CSPH-DOC.EXE	[Card Soft 製品ハイライト]
CSRN-DOC.EXE	[Card Soft リリース・ノート]

上記のファイルは、DOS 環境の下でこれらのファイルを実行することによって、自動的に Windows-Word-format ファイルに解凍されます。CSUG & CVUG がユーザに重要です。

3・2 インストール

- 1 . コンピュータで DOS を始動させ、Card Soft と Card View のディスケットを、ドライブ A: もしくは B: に挿入してください。
- 2 . Windows3.1 ユーザならば、Windows3.1 を立ち上げてください。プログ

- ラム・マネージャから、ファイルを選択し、ファイル名と Enter キーを押す代わりに、A:¥INSTALL または、B:¥INSTALL と尋ねられるので入力し、実行してください。DOS ユーザならば、DOS プロンプトと Enter キーを押す代わりに、A:¥INSTALL か B:¥INSTALL を入力してください。
- 3 .スクリーンに現れる指示に従ってください。問題か質問があるならば、ヘルプについて Card Soft と Card View ディスケットの中の、Card Soft ユーザーズ・ガイドを参照してください。
 - 4 .Windows3.1 ユーザならば、Card Soft インストールが完了した後に Card View をインストールしたいと思うでしょう。Card View をインストールするには、Windows3.1 を立ち上げてください。プログラム・マネージャから、ファイルを選択し、ファイル名の代わりに、A:¥SETUP または、B:¥SETUP と尋ねられるので入力し、実行してください。Card View プログラムが現れたら、PC のスクリーンでの指示に従ってください。問題か質問があるならば、ヘルプの代わりに Card Soft と Card View ディスケットの中の、Card View ユーザーズ・ガイドを参照してください。

3・3 Card Soft ドライバのインストール手順

- 1 . PCMCIA Software Driver のディスクレットを A ドライブに挿入します。
- 2 . DOS を英語モードに変更します。(C:¥>CHEV US)
- 3 . カレント・ドライブを A ドライブに変更します。(C:¥>A:)
- 4 . インストール・プログラムをスタートします。(A:¥>install)
画面の指示に従って、インストール作業を行います。

インストール・プログラムの使い方

(はじめて、ドライバをインストールする場合を想定しています。)

1 . インストール・プログラムのスタート画面

CardSoft™ 3.1
Installation Utility
Copyright 1993,1994
SystemSoft Corporation

Press [ESC] to quit, any other key to continue...

(ESC キーで終了、その他のキーで続行します。)

2. このシステム上の PCMCIA のホスト・アダプタ数を指定します。

1 枚の ISA ホスト・アダプタ・カードでしたら、“ 1 ” を選択します。

2 枚の ISA ホスト・アダプタ・カードでしたら、“ 2 ” を選択します。

NUMBER OF ADAPTERS IN THE SYSTEM

Specify the number of PCMCIA adapters in the computer

1
2

(通常は、1 枚でしょう。)

Use keys to highlight the desired option

Press<Enter> to select the option and continue.

(キーを使って、選択します。<Enter>キーで確定します。)

3. ホスト・アダプタ上の PCMCIA のソケット数を指定します。

NUMBER OF SOCKETS ON EACH ADAPTER

Specify the number of PCMCIA sockets per adapter in the computer

2

Use keys to highlight the desired option

Press<Enter> to select the option and continue.

(キーを使って、選択します。<Enter>キーで確定します。)

注意：PCD-VI-220 カードは PCMCIA スロット数 2 で固定です。

4. インストール先のディレクトリを指定します。

Specify the directory name for installing the CardSoft files.

Directory Pathname
¥CARDSOFT

Use <Backspace> to erase ¥CARDSOFT and then type in the new directory name.
Press <Enter> when complete.

(ディレクトリ名を変更するのであれば、<Backspace>キーで CARDSOFT を消去して、新しいディレクトリ名を入力します。<Enter>キーで確定します。)

- 5 .インストール先のドライブ名とディレクトリ名を確認し、必要なファイルをインストール先にコピーします。

CONFIRM DRIVE AND DIRECTORY

Please confirm the destination drive and directory

C:¥CARDSOFT YES

Use <Space Bar> to toggle between YES and NO

Press <Enter> to continue after the selections are complete.

(インストール先のドライブ名とディレクトリ名がよければ、<Enter>キーを入力して、確定します。インストール先のドライブ名とディレクトリ名を変更したければ、<Space Bar>キーを入力することで“ NO ”にして、<Enter>キーを入力して、新しいドライブとディレクトリ名を再入力します。)

- 6 .CONFIG.SYS を更新するか、CONFIG.SYS のサンプル・ファイルを¥CARDSOFT ディレクトリに作成します。

LOADING DRIVERS INTO CONFIG.SYS

Selecting <Update CONFIG.SYS> will allow the existing CONFIG.SYS file to be changed. A back-up of the original file will be made.

Selecting <Create SAMPLE CONFIG.SYS> will generate a model CONFIG.SYS file and save it in the C:¥CARDSOFT sub-directory.

Update CONFIG.SYS
Create SAMPLE CONFIG.SYS

(通常は、こちらを選択)

Use keys to highlight the desired option

Press<Enter> to select the option and continue.

(キーを使って、選択します。<Enter>キーで確定します。)

7 . CONFIG.SYS ファイルの更新作業を開始します。

そして、[ESC]キー以外のキーを入力して、CONFIG.SYS ファイルの更新作業を開始します。

[ESC]キーを入力する、インストール・プログラムは終了します。

The original CONFIG.SYS file was copied to CONFIG.001

(元の CONFIG.SYS ファイルを CONFIG.001 にコピーしました。)

Press [ESC] to quit, any other key to continue ...
--

8 . EMM386.EXE が登録されている場合に PCMCIA ドライバが使用するメモリ領域を確保します。

MEMORY MANAGERS

The Installation Utility has detected the presence of the EMM386 memory manager.

To insure proper functionality of the CardSoft drivers the parameter X=D000-DFFF must be added.

Select <Add Parameter> to allow Installation Utility to add the appropriate parameter to the memory manager.

Otherwise choose <DO NOT Add Parameter> to keep the present settings.

Add Parameter
DO NOT Add Parameter

(パラメータを追加)

(パラメータを追加せず)

Use keys to highlight the desired option

Press<Enter> to select the option and continue.

(キーを使って、選択します。<Enter>キーで確定します。)

注意：通常は“ Add Parameter ”を選択します。

PCMCIA ドライバが必要とするメモリ領域がこのインストール前に確保されているときは、このメニューはパスされます。

9 . CONFIG.SYS の更新作業を完了します。

Remove all PCMCIA Cards from the system

(システムからすべての P C M C I A カードを抜いてください。)

Press [ESC] to quit, any other key to continue ...
--

1 0 . インストール作業の完了

通常は、“Exit to DOS”を選択し、D O S に戻り、リセットします。

INSTALLATION COMPLETE

In order to activate the CardSoft software,the machine muist be rebooted.

To reboot now, choose <Reboot>, to exit to the DOS prompt without rebooting,

choose <Exit to DOS>.

To install the CardSoft Windows drivers, run SETUP.EXE ,found on this diskette,from within Windows, after you reboot.

Reboot	(再起動)
Exit to DOS	(D O S に戻ります。)

Use keys to highlight the desired option

Press<Enter> to select the option and continue.

(キーを使って、選択します。 <Enter>キーで確定します。)

CONFIG.SYS に追加されるドライバ例

CONFIG.SYS ファイルに次のドライバ群が追加されます。

```
DEVICEHIGH=C:\DOS\EMM386.EXE NOEMS X=D000-DFFF
```

```
REM The above line changed by CardSoft(TM)3.1 Installation Utility
```

```
REM DEVICE=C:\DOS\EMM386.EXE
```

注意：インストール・プログラム実行時に EMM386.EXE

に関するメニューがでなければ、EMM386.EXE の部分は変更ありません。

```
DEVICEHIGH=C:\CARDSOFT\SSVIA.EXE (ソケットサービスドライバ)
```

```
DEVICEHIGH=C:\CARDSOFT\CS.EXE (カードサービスドライバ)
```

```
DEVICEHIGH=C:\CARDSOFT\CSALLOC.EXE (カードサービス・アロケーション)
```

```
DEVICEHIGH=C:\CARDSOFT\ATADRV.EXE (ATAカード用)
```

```
DEVICEHIGH=C:\CARDSOFT\MTSRAM.EXE (SRAMカード用)
```

```
DEVICEHIGH=C:\CARDSOFT\MTDDRV.EXE (MTDドライバ)
```

```
REM ** MTDDRV.EXE NECESSARY FOR FLASH and SRAM CARDS. **
```

```
DEVICEHIGH=C:\CARDSOFT\CARDID.EXE (カードID)
```

注意 1：サポートされている SRAM/ATA のドライバがすべてインストールされます。必要なければ、削除できますが、MTDDRV.EXE のドライバは、SRAM メモリ・カードを使用する場合に必ず必要です。

注意 2：太文字のドライバは必ず必要です。

注意 3：CSALLOC.EXE には、CSALLOC.INI という情報テキストファイルがあります。

注意 4：CARDID.EXE には、CARDID.INI という情報テキストファイルがあります。

注意 5：モデム・カードやネットワーク・カード等を使用する場合は、XXX.CLB ファイルが必要です。たとえば、モデム・カードであれば、GENMODEM.CLB です。

3・4 Windows95 のためのインストール

Windows95 は、この PCMCIA カード・ドライブのサポートを含んでおり、供給されたディスク・ドライブは必要ありません。ユーザは、ハードウェアを取付けている間、Windows95 を起動して、以下の通りに実行してください。

- 1 . ADD NEW HARDWARE 上の START/SETTINGS/CONTROL PANEL をダブルクリックすると、Add New Hardware window が表示されます。
- 2 .PCMCIA socket 上をダブルクリックすると、manufactures & model window が表示されます。PCIC or compatible PCMCIA controller 上をダブルクリックすると、Resource type & Setting window が表示されます。
- 3 .Next 上で、または、Finish 上でクリックすると、System Settings Change window が表示されます。
- 4 . Windows95 を再起動して、Yes 上でクリックします。ソフトウェアのインストールは終了します。

より多くの情報は、オンライン・ヘルプもしくは Windows95 のマニュアルを参照します。

第4章 PCカードの使用

この章では、DOSあるいはWindows3.1のPCカードを使用する方法を説明します。Windows95については、Windows95のマニュアルを参照してください。PCカードをWindows3.1で動作させるためには、DOSのドライバを使用します。次項の大部分の説明はDOSのためにあります。

4・1 PCカード使用の前に

PCカード使用の前に、インストール時に確認した方が良いと思われます。一つ一つをチェックしてください。

表4・1 インストールされるドライバ

DEVICE=C:¥CARDSOFT¥SSVIA.EXE	(1)
DEVICE=C:¥CARDSOFT¥CS.EXE	(2)
DEVICE=C:¥CARDSOFT¥CSALLOC.EXE	(3)
DEVICE=C:¥CARDSOFT¥ATADRV.EXE	(4)
DEVICE=C:¥CARDSOFT¥MTSRAM.EXE	(5)
DEVICE=C:¥CARDSOFT¥MTDDR.V.EXE	(6)
DEVICE=C:¥CARDSOFT¥CARDID.EXE	(7)

CONFIG.SYS fileの確認

ソフトウェアのインストールが終わった後、CONFIG.SYSファイルの中に表4・1に示されるコマンド行が追加されます。

CardSoftドライバが正しくロードされるの確認

CONFIG.SYSファイルの確認後、システムを再起動します。次に、これらのデバイス・ドライバのロードでエラーが起こらないことを確かめてください。

CardSoftのリソースをチェック

CSALLOCユーティリティは、ユーザのPCカードで使用する利用可能なメモリ(MEM)、入出力ポート(IOP)、及び割り込み要求ライン(IRQ)のリソーススキャンします。ユーザのPCカードがどんなリソースを使用するか知るには

C:\%CardSoft ディレクトリで CSALLOC/d を入力して、Enter を押ししてください。以下のようなリストを表示します。

MLM=D000-DFFF

IO =108-1EF, 1F8-377, 380-3EF,970-977, B70-B77, D70-D77, F70-F77

IRQ=3,5,A-C, E,F

3 行のいずれも存在しないことはありません。

4・2 カード挿入とシステムのピープ音

カードを挿入するとき、カードを認識して、CardSoft ソフトウェアが構成することができたかを知らせるために、システムはピープ音コードを發します。これらのピープ音コードは次の通りです。

高いトーンの後、中位のトーンが続くピープ音

挿入すると、PC カードは認識されて CardSoft ソフトウェアが構成されました。

単一の低トーンピープ音

挿入すると、PC カードは認識されましたが CardSoft ソフトウェアは構成されませんでした。単一の低トーンのピープ音は、カードが動作しないことを意味しており、カードを動作させるように、システム構成がユーザの CardSoft ソフトウェア構成を変えなければなりません。この取扱説明書の PC カードの使用とトラブルシューティングの項を参照してください。また、カードが抜かれたとき、中位のトーンのあとに続く高いトーンのピープ音がします。これは、CardSoft にカードが取り外されたことも知らせます。

4・3 ATA カードを使用する

ユーザのシステムのハードディスクがドライブ C: に、割り当てられています。CARDINFO を使用することで ATA カードに、どのドライブ名が予約されたかを、見つけることができます。それから、ATA カードを PCMCIA スロット

トに挿入してください。そして、C:\%cardsoft ディレクトリから、CARDINFO /V と入力し Enter を押してください。以下と同様のリストが表示されます。

Slot 0:

[Card Information]

Card Type = "ATA Disk" (Drive D:) (ドライブ名がここに表示されます。)

Manufacturer = <Vendor Name>

Product Name = <Vendor Product Name>

必要ならば、自分のハードディスクで、ATA カードをフォーマットするのに DOS コマンドの FORMAT を使用することができます。すべての標準の DOS コマンドがあなたの ATA カードで動作するでしょう。

4・4 SRAM カードを使用する

SRAM カードに予約されたドライブ名を知るには、CardSoft ディレクトリから MTDDRV/を入力して Enter を押してください。以下のメッセージが表示されます。

Drive D is partition number 00 for slot number 00.

Drive E is partition number 00 for slot number 01.

例えば、上記の中で、スロット0はドライブ名[D:]を、スロット1はドライブ名[E:]を予約し、必要ならば、ハードディスクで、SRAM カードをフォーマットするのに DOS コマンドの FORMAT を使用することができます。フロッピーディスクのディスクと同じように SRAM カードをフォーマットします。

4・5 LAN カードを使用する

カードを挿入して(1回のピーブ音) PC カードは認識されますが CardSoft ソフトウェアは構成されない場合、LAN カードを構成するためにクライアント・ドライバ(LAN カードのベンターによってサポートされます)を使用してください(構成する方法を知るために、このクライアント・ドライバの取扱説明書を参照してください)。LAN カードが構成されると(2回のピーブ

音)、CardSoft ディレクトリで CARDINFO /V を入力し、Enter を押してください。そうすると、次行と同様のリストが表示されます。

Slot 0:

[Card Information]

Card Type = "Ethernet"

Manufacturer = <Vendor Name>

Product Name = <Vendor Product Name>

[Configuration Info]

necessary for running Network software.

Configuring client handle is A65C

Memory+I/O interface, Vcc 50, Vpp1 50, Vpp2 50

Config base 0100, Config value:

Option value:60

Status value:00

Copy value:00

First I/O range 300-30F, 8-bit

Second I/O range 310-31F, 16-bit

Assigned IRQ is 5 (enabled)

構成された後に、割り当てられた入出力範囲とでジャンパ設定による IRQ で構成される ISA バス LAN アダプタのように LAN カードを見ることができます。このサンプルでは、イーサネット・カードが、2つの入出力範囲(300-30F と 310-31F)と IRQ5 で構成されています。ネットワーク・ソフトウェアが割り当てた入出力の範囲と、IRQ が一致しなければなりません。一致していないとネットワーク・ソフトウェアは動作しないでしょう。

4・6 FAX/MODEM カードを使用する

FAX/MODEM カードが認識されて構成されたら(2回のピープ音)、CardSoft ディレクトリの CARDINFO/F を入力し、Enter を押してください。そうすると、次行と同様のリストが表示されます。

Slot 0:

[Card Information]

Card Type = "Modem" (COM3)

Manufacturer = <Vendor Name>

Product Name = <Vendor Product Name>

[Configuration Info]

Configuring client handle is A5B7

Memory+I/O interface, Vcc 50, Vpp1 50, Vpp2 50

Cofig base 0100. Config value:

Option value:62

Status value:08

I/O range 3E8-3EF, 8-bit

Assigned IRQ is 5 (enabled)

このサンプルでは、Fax/Modem カードは COM 3 と IRQ5 で構成されます。Bit/COM などの通信ソフトの COM ポートと IRQ の割り当ては COM3 と IRQ5 に一致しなければなりません。一致しなければ通信プログラムのプログラムは動作しないでしょう。通常、ユーザの PC には、存在する COM ポート、及び Mouse などの他の装置のための IRQ があります。それらは COM1/IRQ4 と COM2/IRQ3 です。ユーザの PC にこれらの存在する COM ポートがあると、PC で他の装置を衝突させるのを避けるために CardSoft は、これらの COM ポートと IRQ をもったあなたの Fax/Modem カードを構成しないでしょう。

4・7 その他の PC カードを使用する

カードを挿入すると（1回のピープ音）、PC カードは認識されましたが CardSoft は構成されない場合、PC カードを構成するのにクライアント・ドライバ(あなたの PC カードのベンダーによってサポートされます)を使用してください(構成する方法を知るために、このクライアント・ドライバの取扱説明書を参照してください)。PC カードが構成された（2回のピープ音）とき、CardSoft ディレクトリで、CARDINFO /V を入力し Enter を押してください。最後の項の「LAN カードを使用する」と同様のリストは、ユーザの PC カードがどんな入出力範囲（1つか2つの範囲）と IRQ で構成されるのかを

示します。そして、PC カードの供給されたソフトウェア・ドライバの入出力範囲と IRQ の割り当てが構成された入出力範囲と IRQ に一致しなければなりません。一致しないと PC カードは動作しないでしょう。

第5章 トラブルシューティング

5・1 インストール

ソフトウェアをインストール中に図5・1で示されるウィンドウを見た場合。

ホスト・インタフェース・アダプタが正確に取付けられていないか、ジャンパ設定がデフォルト値でない、また、デフォルト値(入出力アドレス)が他のアダプタカードに使用されることを意味しています。それ以外では、ホスト・インタフェース・アダプタが不良かもしれません。デフォルト以外の値を使用しなければならなくて、あなたがソフトウェアをインストール中に図5・1で示されるウィンドウを見た場合、VIA VT83C465/469 Socket Servicesを選択して、インストールを続けてください。

システム起動中に、以下の2回のメッセージの1つを見た場合。

PCMCIA CONTROLLER CHIP

Determine the make of the PCMCIA adapter inside the machine, then select the appropriate Socket Services from the following list.

他のCardSoftを使用しており、PCMCIAソフトウェアとの衝突があることを意味しています。それ以外では、ホスト・インタフェース・アダプタが不良かもしれません。

Intel 82365SL Socket Services
Databook Socket Services
Cirrus Socket Services
Vadem Socket Services
VLSI Socket Services
Intel 82365LP Socket Services
IBM 720 Socket Services
VIA VT83C465/469 Socket Services
Not Install Socket Services

図5・1 インストール時のウィンドウ表示画面

5・2 ATAカード

2回のビープ音と、DIR エラー

ユーザのATAカードは、フォーマットされていません。それをフォーマットしてください。

2回のビープ音と、フォーマットできません

ユーザのATAカードは、パーティションが切られていません。これに関して、CardSoft ディレクトリ、ATAINIT<ドライブ名>を入力しEnter を押してから示される指示に従ってください。ATAINIT に関する、より多くの情報はCardSoft ユーザーズ・ガイドの第3章を参照してください。

2回のビープ音と、パーティションが切られいません

このATAカードは不良です。

1回のビープ音

CardSoftはこのATAカードをサポートしていないか、このATAカードが不良です。

5・3 SRAMカード

2回のビープ音と、DIR エラー

このSRAMカードは、フォーマットされていません。もしくは、CardSoftのインストールが不正確です。

2回のビープ音と、フォーマットできません

このSRAMカードが不良、もしくは、CardSoftのインストールが不正確です。

1回のビープ音

あなたのSRAMカードが不良、もしくは、CardSoftのインストールが不正確です。

5・4 FAX/MODEM カード

2回のビーブ音と、COM ポートは構成されません

ユーザの PC に 4 つの存在する COM ポートがありますが、ある COM ポートをディセーブルにする方法を、あなたの PC のユーザーズ・マニュアルを参照してください。

2回のビーブ音と、構成されない IRQ があります

CardSoft ユーザーズ・ガイドの第 2 章における「CSALLOC を使用する」を参照してください。

2回のビーブ音と、構成された COM ポートと IRQ は、あなたの通信ソフトに適合しません

CardSoft ユーザーズ・ガイドの第 2 章「CSALLOC の使用」と「Configuration Utility を使用する」を参照してください。

構成された 2 回のビーブ音、COM ポート及び IRQ はこの通信ソフトの COM ポートと IRQ の割り当てと一致していますが、通信ソフトは動作しないでしょう

構成された IRQ は、ユーザの PC に他のデバイスを使用すると衝突するかもしれません。CardSoft ユーザーズ・ガイドの第 5 章における「システムのカスタム設計をする」および、第 2 章の「CSALLOC を使用する」を参照してください。

1回のビーブ音

この Fax/Modem カードは不良もしくは、CardSoft のインストールが不正確です。

5・5 LAN カード

2回のビーブ音と、入出力範囲または、IRQ は構成されません

CardSoft ユーザーズ・ガイドの第 2 章における「CSALLOC を使用する」を

参照してください。

2回のピーブ音と、構成されたCOMポートとIRQは、ユーザのネットワーク・ソフトに適合しません

CardSoft ユーザーズ・ガイドの第5章における「システムのカスタム設計をする」および、第2章の「CSALLOCを使用する」を参照してください。

構成された2回のピーブ音、入出力範囲とIRQはユーザのネットワーク・ソフトの入出力範囲とIRQの割り当てが一致していますが、ネットワーク・ソフトは動作しません

構成された入出力範囲及びIRQは、あなたのPCに他のデバイスを使用すると衝突するかもしれません。CardSoft ユーザーズ・ガイドの第5章における「システムのカスタム設計をする」および、第2章の「CSALLOCを使用する」を参照してください。

LANカードベンダーによって、クライアント・ドライバはサポートされ、構成は失敗しました

CardSoft ユーザーズ・ガイドの第5章における「システムのカスタム設計をする」および、第2章の「CSALLOCを使用する」を参照してください。クライアント・ドライバがこのLANボードを構成するように、システム・リソースがあるかどうかチェックしてください。

5・6 他のカード

LANカードのトラブルシューティングを参照してください。

5・7 AS-3110と共に使用する場合

山下システムズ(株)製CPUカードAS-3110と組み合わせて使用する場合は、AS-3110のCMOS SETUPの以下の項目を下線のように設定してください。

AS-3110のADVANCED CHIPSET SETUPの

AUTO AT BUS Clock Select: CLK2/10 [CLK 2/8]

Hidden Refresh : Disabled [Enabled]

注． [] 内は、デフォルト値

5・8 PCMCIA コントラ VT83C469 の登録されていないドライバ

VT83C469 が登録されていないドライバは、Cirrus Logic PCIC Compatible PCMCIA Controller として設定することで動作させることができる場合があります。

以下の商標はこの文書で使用されています。

PCMCIA は Personal Computer Memory Card International Association の商標です。

Microsoft は登録商標です。

MS-Windows は、Microsoft 社の商標です。

IBM は、International Business Machines Corporation の商標です。

SYSTEMSOFT は、SystemSoft Corporation の登録商標です。

Card Soft と Card View は、SystemSoft Corporation の商標です。